和尚さんのお経

大雪の日、お寺のお坊さんが道に迷っちゃってな、困ってあたりを見まわすと、遠くに明りが見えたとさ。近づくとそれは一軒の家だった。戸があいて中からおじいさんがでてきたので、お坊さん頼んで泊めてもらうことにしたんだって。「おじいさんありがとう、この金を！」「いやいや和尚さん、わしゃ金などいらね。それより近ごろはぶっそうだから、どうかどろぼうよけのお経を上げてけれ」。さて弱った。お坊さんはそんなお経は知らない。どうしたものかとあたりを見廻すと、土間の隅に一つの穴があいていてな、そこからねずみがチョロ、チョロ出てきてお坊さんを見るとしっぽをひいて隠れてしまった。そこでお坊さん「おんチョロチョロ、又もチョロチョロ、顔出して逃げ候」とお経をあげた。それから毎日、おじいさんは仏様の前でこのお経を上げていたと。あるとき泥棒がキョロキョロ、顔をチョッと出して、になわを引きずってもどったりしたんだって。それを知らぬおじいさんは、いつものように「おんチョロチョロ、又もチョロ、チョロ顔出して逃げ候」。さあ泥棒大あわて。これあきっと、おいらを改心させようとしているんだ。これからは足を洗ってまじめに生きなくちゃ。

トッピンパラリのプー。